

シンポジウム

3.11

Social Movements in Post-3.11 Japan

後の社会運動 8万人データによる検証

東日本大震災以降、反原発デモや反安保法制デモなど、大規模な抗議活動が政治を揺るがすようになった。40年間の空白を経て、社会運動がなぜ再び盛り上がりを見せたのか。誰がどのようにして運動に馳せ参じたのか。デモはいかなる社会的意義を持つのか。8万人近くの市民を対象として行われた大規模調査の分析から、こうした問いに迫っていく。

【日時】 2019年 **1月27日** (日) 13:00-18:00 (開場 12:30)

【場所】 **上智大学四谷キャンパス 2号館401教室** (正門に入って左側の最初の建物の4階)

東京都千代田区紀尾井町7-1 JR中央線・丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩5分

【対象】 どなたでも御参加いただけます ※無料 ※申し込み不要 定員250名



【プログラム】

司会：稲葉奈々子 (上智大学)

- **個人化時代の社会運動？—目覚まし時計としての3.11** 佐藤圭一 (日本学術振興会)
- **抗議の波の到来？—誰がいつ参加したのか** 樋口直人 (徳島大学)
- **若者はSNSの夢を見るのか？—「運動を知らない」世代の運動参加** 松谷満 (中京大学)
- **団体様の参加？ おひとり様の参加？—運動参加の組織的／非組織的基盤** 原田峻 (金城学院大学)
- **Gender-gap in Social Movement Participation and Mobilization in Post-3.11 Japan?** Barbara Holthus (ドイツ日本研究所)
- **動員の限界？—運動の裾野と支持の広がりをめぐる** 永吉希久子 (東北大学)
- **3.11後の社会運動は何を遺したのか？—デモの遺産をめぐる** 大畑裕嗣 (明治大学)

コメント：上野千鶴子 (認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)

小熊英二 (慶應義塾大学)

松井隆志 (武蔵大学)